

成蹊学園

蹊

Series 学園史料を読む。

Contents

- 2 新年度のごあいさつ
(専務理事/学長・校長)
- 6 桃李の人々(高島 彩)
- 9 2007年度事業計画・予算の概要
- 12 大学の近況
- 14 中学・高等学校の近況
- 16 小学校の近況
- 18 2007年度入学試験結果
- 19 学園トピックス/役職者紹介
- 20 学園史料を読む

濃密な人間関係を築けることが
一貫校ならではの魅力です。

高島 彩

インタビュー
桃李の人々



新年度のごあいさつ
成蹊学園の新たな歩み
創立100周年記念事業のご報告



本学創立者である中村春二の教育方針として、冬の裸体訓練などの「鍛錬主義」がよく知られていますが、なかでも彼は、早くから「断食」を成蹊教育の一環として取り入れていました。

「断食(だんじき)」とは、一定期間、食物の摂取をやめる行為のことを意味します。この風習はイスラム圏のラマダンやキリスト教圏の復活祭前の時期など、世界各地で見受けられるのですが、わが国でも断食行為は、古代から仏僧の修行に取り入れられ、また大正期には、民間療法の一つとして多くの医師たちに用いられてきました。

中村春二も、飢餓感の克服と食物への感謝を目的とする断食の教育的効用に、いち早く注目した人であったといえるでしょう。

成蹊学園における「断食会」と呼ばれる会は、冬季に行なわれることが多かったようです。小学生には九日、それより年長の生徒や教職員には三日間の断食が課せられました。参加者はその間、先生の講話を聞き、また断食法の訓練などをしたといわれています。

ある断食会の最中、こっそり学園の畑の大

断食会メダル どこよりも早く「断食」を教育に取り入れた中村春二

根を抜いてかじっていた中学生が見つかりました。春二校長はさっそく父兄を呼び出して、家庭が無責任だと叱り、「自分(親)は勝手なことをしているが、万事学校にお任せしておけばよくしてくれるな」と思われたのでは、責任は持てない。小学校では、子供が学校で断食している日に、両親も家なり会社なりで一緒に断食している。ここまでいかぬと本当の教育効果はあがらない。」と両親が散々絞られた、というエピソードが残っています。

(舎監大久保捨蔵氏の「成蹊中学校生活回顧」『成蹊学園六十年史』より)

決められた期間の断食を最後までやり遂げると、参加者には小さなメダルが渡されました。学園史料館にも、卒業生から寄贈されたこの「断食会メダル」が数点所蔵されています。小さな桐の箱に入れられたメダルの二つをみると、それぞれの卒業生が成人後何十年ものあいだ、手元で大切に持ってきたことがうかがえます。

やがて断食や断食といった成蹊学園独自の教育法は、全国的に注目を集めるようになり、「修養会」と言う名のもとに、教育者を対象に各地で開催されるようになります。この修養会を通じて、中村春二は、自らの教育思想を全国に普及させていったのです。



(上)集合写真:「断食と修養」宮坂吉宗著より(学園史料館 所蔵)
(右)断食会メダルと箱:旧制高等学校時代のもの



成蹊学園広報

2007年4月1日 発行/学校法人 成蹊学園総務部広報課 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話(0422)37-3517
URL <http://www.seikei.ac.jp> e-mail koho@jim.seikei.ac.jp

成蹊学園の 新たな創造に向けて

環境保全活動について 基本理念と基本方針を制定

成蹊学園 専務理事
成蹊学園 将来構想検討委員会 委員長 橋本 竹夫
Takeo Hashimoto

専務理事あいさつ

新 入生の皆さんご入学おめでとうございませう。在校生の皆さんも新学期を迎え、新しい勉強目標に向かって張り切っておられることと思います。

成蹊学園は、現在創立一〇〇周年記念事業の一環として、教育研究のさらなる充実をめざした活動に取り組んでおりますが、その実現に必要な、施設建設と改修工事を以下のとおりに実施しております。

昨年九月に開館した大学の情報図書館は、教職員・大学生をはじめ予想を超える多くの方々にご利用をいただいております。「明るく、美しく・暖かい」建物をコンセプトに、卒業生の建築家である坂茂さんに設計をいただきました。また、建物の立地条件の良さ、IT化されたサービス内容の良さが利用者に歓迎されているためだと自負をしています。

中高の施設建設の第一弾は、昨年七月に着工した中学校のホームルーム棟です。今年七月竣工に向けて建築が進んでいます。暖かさを基本とした建物で、生徒ホールと職員室が同じフロアーに配置され生徒と教員のコミュニケーションが確保できる工夫がされています。今年十月か

らは、二〇〇九年の一月から使用開始を予定し、中高教育の一貫性を強化する目的で、機能を重視した高校ホームルーム棟の新築工事に着手いたします。

小学校では、二十八人（高学年三十二人）・四学級」の少人数教育に対応する、施設再開発を行います。新しい校舎は坂茂氏の基本設計により、木製デッキのテラス付きのホームルーム教室二十四室をはじめ、理科室、図書室、パソコンルームなどが設けられます。今年の五月、現在の校舎の解体工事に着手し、七月から新築工事が始まります。新校舎は二〇〇八年六月に竣工し、同年九月から使用開始を予定しています。

学園の環境整備については、昨年度に中高南側および大学西部室周山の山桜通りの沿道緑化と、本館前庭西側の情報図書館周辺外構の整備を行いました。今年度は、中高北側の沿道緑化を行う予定にしています。

成蹊学園は、学園独自の環境保全対策を進めるため、昨年度から「学園環境委員会」を設置いたしました。その活動の一環として、環境保全活動についての「基本理念」を理事長宣言として定めました。「人類が抱える大きな課題の一つである環境問題に対し、個性尊重教育と実践教育との融合を図り、児童・生徒・学生に環境教育をあらゆる側面から学ばせることが重要である」と考え指導する。また、環境問題を解決できる学生・研究者の育成に努め、その研究支援を行う。「というものです。この基本理念に基づいて、地球環境の保全と維持を課題とする教育研究の充実を図り、環境問題に貢献する人材育成および環境分野の研究推進に努め、環境教育研究の発信と公開、社会貢献を図る諸活動を積極

的に行い、省エネルギー省資源、資源再利用化と廃棄物の減量化、みどりの保全に努めるという「基本方針」を併せて決めました。今年三月末には、この環境保全への取り組み実績と、今後の活動の方向性、学園のエネルギー消費状況などを掲載した「環境報告書」を発行いたしました。

環境保全は学園の果たすべき社会的な責任であると認識をし、さらなる環境配慮意識と社会的信頼性の向上、継続的な環境保全と改善の実施をめざすためにISO14001の認証取得へ向けた準備を進める予定にしています。

少し先の話となりますが、二〇〇八年三月二十三日の「建学の日」に向け、中村春二先生が行われた成蹊教育に関連したエッセイを募集し、優秀作品を表彰する新しい取り組みを考えています。また、中村先生が目標とされた、人格主義を中心とする実践の人間教育の理念である「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」を具現化する活動として、当初「建学の日」に実施した地域清掃活動は、今後年間四回実施する定常的な活動とすることにいたしました。地域清掃活動は、これまでも各学校の児童・生徒・学生と教職員、卒業生の皆様などの自主的な参加のもと、実施地域の方々に喜ばれる活動として実施してきましたが、今後ともよろしくご協力をお願いいたします。

本

年度も多くの優秀な学生を迎えることができ、何よりの喜びです。緑豊かで落ち着いた雰囲気、この素晴らしいキャンパスは学生と教員が交流する場であり、知的刺激に満ちています。成蹊大学生としての限られた時間を有効に使用して、大きく飛躍していただくことを願っています。

新年度にあたり、大学の近況をご報告いたします。

施設関係

情報図書館が昨年度後期にオープンしました。この図書館は創立一〇〇周年記念事業の一環として建設されたものですが、多くの方にご協力を賜りましたことを感謝しております。開かれた図書館として、卒業生、近隣住民の方も利用しやすいように工夫しました。

新図書館の開館にともない、旧図書館本館と別館を新たに大学一、二号館として改装しました。アジア太平洋研究センター、キャリア支援センター、国際教育センターなどが入る「センター棟」として利用するほか、多くのゼミ室が設置されました。これによって教育研究環境はますます充実しました。（※十九ページ参照）

カリキュラム

国際化、情報化が進む社会にあつては、いかなる変化にも対応できる基礎的な学力、深い教養、語学力、コミュニケーション能力などをつけることが教育の課題です。広い視野をもたせるために学部、大学院において横断型の科目をいくつか設定したところ、学生には好評でした。成蹊を卒業するまでには一定レベルの教養、基礎学力を身につけていることが必須であると考えていますので、全学的な教育カリキュ

ラムの構築に向けて議論を深めています。成蹊は一つのキャンパスに文系三学部、理系一学部をもつ総合大学であるため、この利点をフルに生かした文理融合型の新しい教育プログラムをめざしています。

奨学金

本年度から奨学金制度を一新しましたが、特に「成蹊大学社会活動支援奨学金」は少人数教育の伝統を生かして、社会的能力をふくめた人間としての総合的な力を向上させるために新設しました。これは、教員との連携のもとに学生が行う社会貢献活動や調査研究活動を支援することを目的としています。学生と教員との距離が近いからこそ可能になったものです。学生と教員が一体となって多様な活動が展開されるのを楽しみにしています。

競争的資金の獲得

大学に対する国の補助金は従来の一律的なものから国公私立大学共通の競争的資金に重点が移りつつあります。国からの資金獲得が教育研究活動に大きく影響するため、激しい競争が展開されており、私立大学にとっては厳しい状況です。このような競争的資金の一つに「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」がありますが、本学では中国語音声学習プログラムの開発をテーマとして申請した結果、高い競争率のなかで採択されるといふ大きな成果をあげました。これによって学生がさらに効率的・効果的に中国語学習を進められる環境が整います。今後とも競争的資金の獲得に向けて大学としての取り組みが欠かせません。

学生と教職員の協働

本学では各種の改革、改善を進めています。学生の意見が生かされなければ有効なものにはなり得ないこともあります。大学は学生と教職員の「協働」作業でつくっていく場であると信じていますので、学長に対する意見箱（学長直行便）を設置するとともに、意見を直接聞くために学長オフィスアワーを行っています。本年度からは意見交換の場として「学長と語る会」を設け、よりよい大学にするために多くの学生と話をしたいと思っています。

一八歳人口が減少し続けるなかで大学間競争が激化しています。昨年度の入試では四年制大学の約四割が定員割れを起しました。状況はさらに厳しくなっています。本学の今年の入学志願者は昨年とほぼ同数を確保することができましたが、さらに教育の質を高めることに重点を置くとともに学生支援、入試制度の面でも改革が必要です。今後ともご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

新年度を 迎えて

学長・校長あいさつ

教育の質向上に向けて ～大学の近況をご報告～

成蹊大学長 栗田 恵輔
Keisuke Kurita





一貫教育をさらに充実し、 学園ワンキャンパスのメリットを生かす



成蹊中学・高等学校長 谷 正紀
Masanori Tani

今 年も新入生を迎える季節となりました。入学された生徒の皆さんには、難関を突破され、今後の充実した学校生活を過ごされることを大いに期待しております。

成蹊中学校では、今年度より二科・四科の二方式受験から四科目受験に統一しました。四科応募者数で見ると前年に比べ増えており、高等学校でも昨年比で応募者がやはり増加しております。これらは何よりも同窓生ならびに在校生保護者の皆様のご支援の賜と感謝しております。また、成蹊高校生の大学進学については、今年度の成蹊大学への推薦入学は一四〇名で、前年に比べさらに九%増大しております。この人数は卒業生の四三%にあたり、この四年で一八ポイント増加しました。外部の大学についても生徒の多様な個性を生かし、国立大学、難関私立大学、さらには成蹊が伝統的に強い医歯薬系大学など、さまざまな分野へ挑戦し、進学しております。

さて、昨年は多くの教育に関する話題、問題が社会で取り上げられました。教育基本法の改正、教育再生会議での議論、いじめ、未履修問題など、枚挙に暇がありません。世界、社会の時代的な変革とともに若者に関する問題がいくつか突出し、その対応として教育が取り上げられています。マスメディア、社会の教育論議はさまざまですが、単に教育のあり方を批判、糾弾するのではなく、教育の重要性とそれに対する社会の期待が改めて大きく認識され出したといえます。もちろん教育の役目は学校のみで課せられるものではなく、家庭、社会を含めた総合的な役目であり、改正教育基本法でも家庭、地域社会の役

割を謳っています。

このようななかで学校教育に携わる私たちは、自己開拓力を持ちグローバルに活躍できる全人格像を持った次世代の人間を育てることが期待されていると考えております。そのための中学・高等学校の将来構想も具体化しており、教育の枠組みについては二〇〇七年度から中学校クラス定員の少人数化を始め、クラス数、国際学級の位置付けの改革を実行に移しました。入試改革についてはモチベーションの高い受験生の獲得のため、塾、専門誌、入試相談会、学校説明会など受験生に向けた広報活動に力を注いでおります。

施設の再開発では昨年七月に着工した新中学校舎が本年の七月に竣工の予定です。また、高校の新校舎もこの一月に学園の承認を得て、夏以降の現校舎取り壊しに続き、十月に新校舎着工、二〇〇八年十月に竣工の予定です。工事中は生徒の安全で円滑な学習と学校生活の確保が何よりも大切です。生徒にとっては新しい施設に恵まれるわけですので、この素晴らしい学習環境を永く維持していくための美化、整理整頓などの指導、環境やモノを大切に心の醸成もさらに推進していきます。

教育の中身の充実はいこれらの枠組みと施設に魂を入れることであり、中等教育の役割は「生徒個人が多様な個性を生かし、志望するいかなる進路も目指せる力」をつけさせる教育や進路指導ということにあります。特に導入期、充実期、発展期の各ステップに応じて学習姿勢・意欲の向上と学力の向上に重点を置いた各教科の六年間の一貫したカリキュラ

ムを充実させることが基本です。これには生徒としての基本的な身だしなみや規範意識の教育指導はもちろんのこと、キャリア意識を醸成する教育、自らの将来像を描かせ、そこへ到るための道筋を考えさせる「六年間の進路指導」、各ステップのねらいに沿った諸行事の見直しなどを検討することになります。

キャリア意識醸成教育に関連して、二〇〇七年度から進路指導体制も強化します。六年間の一貫教育の出口としての挑戦、目標達成のための調査・分析、情報提供、教育、指導、高次の連携などについて積極的に取り組んでいきます。

国際理解教育については、中高国際教育委員会の精力的な活動、国際教育センターとの連携により、ケンブリッジ大学への短期留学制度の立ち上げをはじめ、国際交流の面でも多くの成果が出ました。今年も成蹊の国際教育の伝統のさらなる発展を期したいと思います。成蹊は小学校、中学・高等学校、大学、大学院、国際教育センターなどの教育機関がワンキャンパスにある数少ない学園です。施設などハード面のみならず、ソフト面でのメリットを十分に認識し、各学校が意思疎通を密にして教育あるいは人的交流を通じ連携、切磋琢磨し、さらには貢献し合うことにより、成蹊学園の一貫教育ならびに各学校の実力と評価が高まるものと期待しています。

今年度も「伝統とともに飛躍しよう」の意気込みで取り組んでまいりますので卒業生の皆様、在校生保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

枯 林忌の日、小学校の校内テレビ放送で、次のように子どもたちに語りかけました。

今日は二月二十一日、成蹊学園を始められた中村春二先生がおなくなりになった日です。最初に、凝念をいたしましょう。

(凝念)

中村春二先生は、大正十三年の今日、朝早くにおなくなりになりました。成蹊小学校ができて十年目のことです。ですから、中村春二先生がなくなられたのは、もう八十年以上前のことになりました。

でも、中村春二先生のお考えは、校歌の中に、心力歌の中に、そして凝念の中に、今でもしっかりと受け継がれています。

中村先生は、なくなられる前の日の夜、長男・次男・三男の三人のお子さんを枕元に呼んで、最後のお話をされました。

中村先生は、もうお話がしっかりとできないお辛いときでしたから、筆談といって、紙に字を書いてご自分の気持ちをお子さんに伝えられたそうです。

そして、三人のお子さんに次のような三つのことを伝えられました。

一つ目は、独立心をもつこと。
二つ目は、常に開拓精神をもつこと。
三つ目は、創造の喜びを知ること。

この話は、中村春二先生の枕元でお話を聞いた次男の中村浩さんが、「人間中村春二伝」という本の中で紹介されているものです。

独立心とは、人に頼らず自分でやり遂げようとする心のことです。いやなことがあっても、周りの人のせいにするのではなく、自分の力で解決して、こうとする強い心のことです。

次に、常に開拓精神をもつとは、人の後ろからまねをして歩いていくのではなく、辛いことでも大変そうなことでも自分から進んで飛び込んでいく勇気をもつということです。最後に、創造の喜びを知るとは、文化祭や音楽会、運動会のように、努力してみんなで新しいものを創り出していく喜びを感じるということです。

中村先生が最期に残されたこの三つの言葉は、三人の息子さんのためであるばかりでなく、今の成蹊小学校の子どもたちにも伝えられた言葉だと、私は思っています。

独立心・開拓精神・創造の喜び。この三つの心の力を、私たちが大切にしましょう。今日の中村春二先生のご命日を「枯林忌」と呼んでいます。

枯林忌は、この中村春二先生の立派なお人柄やお仕事を、私たち成蹊学園のすべての人が忘れないようにおしのびする日なのです。

今朝、桃の会委員会の皆さんが、大学図書館の横の中村先生の胸像におまいりをしてくださいました。

皆さんも、担任の先生と一緒に思い出を振り返ってください。

そして、独立・開拓・創造の三つの心を、自分の中にもしっかりと育てることを中村先生にお約束してきてください。お願いします。

* * *

三月には二十一世紀最初の年に入学した子どもたちが小学校を巣立ちました。そして、二十世紀最後の年と二十一世紀最初の年に生まれた子どもたちとが、この四月に入学しました。「二十一世紀の教育」は、すでにスローガンではなく、現実の子どもたちに対処する具体的な方策でなければなりません。

そう考えるとき、中村春二先生がお子さんに遺された「独立心・開拓精神・創造の喜び」は、少しも色褪せることなく、私どもの心に響いてきます。

そして、小学校の教育目標である「自立・連帯・創造」の子ども像と中村先生の三つの言葉とが重なり合って、少人数教育体制と施設再開発の歩みを勇気づけてくれます。

今年度も先輩に学んだ「伝統の継承と超克」を座右の銘として、微力ながら成蹊小学校の教育の充実と心を尽くしてまいります。

皆様の小学校教育に対するご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



成蹊小学校長 金納 善明
Yoshiaki Kinno

独立心・開拓精神・創造の喜び





インタビュー 桃李の人々 vol.13

卒業生ロングインタビュー

子どもが生まれたら
ぜひ成蹊学園に入学させたい
——成蹊学園に入学されたきっかけは
何だったのですか。

高島 兄が小学校に入学する時、母がいくつかの小学校を見学して回り、成蹊学園の抜群の環境に魅かれたようです。「街中の学校なのに、緑に囲まれ、グラウンドでは小学生たちが泥んこになってはしゃいでいる。上品な家庭の子どもが通う学校のイメージがあったけど、子どもたちの様子を見てみると、とてもたくましい」と語っていました。実際、兄が楽しそうに通っている姿を見て、母は私もぜひ成蹊学園へという気持ちになったのです。

フジテレビ アナウンサー

高島 彩

Aya Takashima

『めざましテレビ』『熱血!平成教育学院』など、報道からバラエティーまでこなすオールラウンドなアナウンサーとして大活躍中の高島彩さん。「アヤパン」の愛称で親しまれています。小学校から大学まで、成蹊学園一筋の高島さんに、当時の思い出を語っていただきました。

濃密な人間関係が築けることが 小学校から大学までの 一貫校ならではの魅力です。

——小学校時代の思い出を教えてください。

高島 担任の先生には本当に恵まれました。五歳の時に父を亡くした私は、一・二年生の担任だった伊東良延先生に父の姿を重ねて、いつも後ろをくっついて歩いていました。とくに思い出深いのが、夏の学校です。病気にかかり、医者からは「他の子どもに伝染してはいけないから」と、参加を止められたのですが、伊東先生は「せつかく楽しみにしていたのだから。お風呂などを別にすればいい」と、連れていってくださいました。今なら大変な問題になる話かもしれませんが(笑)。生徒が傷つかないように、細やかな配慮をされる先生でした。

三年生から六年生までの担任だった石根要二先生のニックネームは「ネットシー」。先生もそれを気に入っていたようで、学級だよりにはいつもネットシーのイラストが添えられています。石根先生は生徒を楽しませることに長けた方で、コマ回し、メンコ、

ペーゴマなど、私たちが日ごろあまり触れたことのない、ちょっと昔の遊びをいろいろと教えてくださいました。時には授業をつぶして、メンコ大会などが開かれ、優勝者にはお菓子の賞品が出されたりもしました。

——やさしい先生が多かったんですね。

高島 単にやさしいというわけではありません。悪いことをした時は厳しく叱られました。しつけるべきところは、きちんとしつける。そんな教育方針が徹底していました。私はいきすぎた体罰には反対ですが、教師には、ある程度厳格さも必要だと考えています。野放しにしていたのでは、いつまでたっても子どもたちに社会性は身につきません。目にあまる行動があった時には、きちんと叱れる先生方だったからこそ、私はいじめも学級崩壊もいつさい経験することはありませんでした。報道に携わるようになった今、荒れた学校の実態を知らない経験不足を感じ、もっとハードな環境で揉まれ

た方がよかったかなと思うこともありませんが、自分に子どもが生まれたら、やはり成蹊学園に入学させたい。厳格さとやさしさを併せ持つ先生方のもので学ばせたいと思っています。

力仕事もこなした
ラグビー部マネージャー時代

——部活動は何をされていたのですか。
高島 小学校では家庭科部に入りました。見学に行った時、アイスクリーム



高島 彩(たかしま・あや)

1979年東京都生まれ。成蹊小・中・高校を経て、成蹊大学法学部政治学科卒業。2001年にフジテレビにアナウンサーとして入社。1年目から、自らの愛称を冠した番組『アヤパン』で人気を博す。現在『めざましテレビ』『熱血!平成教育学院』『爆笑そっくりものまね紅白歌合戦スペシャル』『新春かくし芸大会』などで司会を務める。

を食べさせてもらい、それにつられて入部しました(笑)。ミシンを使ったり、編み物をしたり、本格的な料理に挑戦したりと、小学生としてはかなりレベルの高い活動をしていました。そのおかげで、今でも料理は得意です。中学校からは、少し体を鍛えたいと考えて、バスケットボール部に所属しました。当初、母からは「あなたのように飽きやすい性格だと、途中で嫌になってやめてしまうのじゃない」と、反対されました。確かに、運動部ですから、練習は厳しく、何度もやめようかと考えたことがあります。けれども、バスケットボールはチーム競技です。私がいやめると、他の皆に迷惑をかけてしまいます。結局、三年間続けて、試合にも出場しました。体力面以上、途中で逃げない大切さという精神面を鍛えられた気がしています。

——高校でもバスケットボールは続けたのですか。

高島 いえ、ラグビー部のマネージャーになりました。兄がラグビー部に所属しており、もともと興味を持っていただけです。練習の後に入るお風呂を掃除したり、泥だらけのジャージを洗濯したり、テーピングを買いに走ったり、今になると、なぜあんな大変な仕事を率先してやっていたのか、不思議な気がします。やはり、勝利した時の感動を分かちあえるところ

が魅力的だったのでしょう。大会前になると、手作りのお守りを全員分縫っていました。ジャージのカラーと同じ模様で、背番号を縫い付けて、中に一言メッセージを入れて……。熱く青春していましたね(笑)。

入社試験で役立った
デイベートの授業

——印象に残っている授業はありますか。

高島 高校二・三年生で担任だった花山聡先生の国語の授業が印象的でした。授業でデイベートを取り入れられていたからです。森嶋外の『舞姫』を読んで、いくつかのテーマについて、賛成派と反対派に分かれて、議論したことを覚えています。当時はまだデイベートはほとんど知られておらず、画期的だったのではないのでしょうか。

実は、フジテレビの入社試験でもデイベートが課され、この授業の教えが役立ちました。花山先生から指導されたことは「デイベートのコツは、いきなり反論するのではなく、まず相手の意見を肯定すること。その上で『でも』と反論しなさい。そうすれば、相手の意見をよく聞いている印象を与えられるし、自分の意見を理解した上で反論されると、相手はさらなる反論をするのが難しい」というものでした。入社試験では、当時の記憶が一気に蘇り、自分なりにうまく対応することが

できました。とても感謝しており、あのスタイルの授業をぜひ続けてほしいと思っています。

漢文朗読がアナウンサー
としての芽生えに!?

——大学で、法学部政治学科を選ばれた理由は何ですか。

高島 高校までに法学、政治学はそれほど深く学びません。未知の学問を学んでみたいという興味がありました。兄が法学部に進学していたことも影響したかもしれません。

——どんな授業が興味深かったですか。

高島 いざ学び始めてみると、法学、政治学は予想していた以上に難しく、苦労しました。そんななかで興味深く受講したのが、4年次の李静和先生のゼミです。現実起こっている社会問題を素材として、日中・日韓関係などに関してディスカッションするゼミで、それを通して、時事問題への関心を深めることができました。

専門科目以外で、最も力を入れて学んだのが中国語です。とくに中国の古典講読の授業は、発表の当番でない時でも、毎回必ず予習していました。もともと、高校生の頃から漢文が大好きで、より深く学べることが楽しかったのです。最近でも『論語』を読み返すなど、漢文好きは続いています。

2007年度 事業計画・予算の概要

2007年度予算は、理事会、評議員会の議を経て、第1表および第2表のとおり決定いたしました。

少子化による大学間競争は益々激しくなり、私学の経営環境は一層厳しさを増しています。学園では、2012年の創立100周年に向けて記念事業を進めています。2007年度は、中学・高等学校および小学校の施設再開発が相次いで進み、建築費用等の支払い、基本金の組み入れはピークを迎えます。このため、当年度の消費収支予算では、多額の支出超過額を見込んでいます。なお、2008年度以降は、基本金組入額が減少するため、支出超過の状況は解消される見込みです。

第1表の消費収支予算書は、消費収入と消費支出の均衡の状態とその内容を明らかにすることにより、学園の経営状況を把握するものです。

消費収入の部では、納付金が前年度より2億10百万円減少する見込みですが、これは新入生の納付金について、前年度は実入学者数により補正予算を編成したことによるためです。その他、手数料、寄付金、補助金などの実質的収入である帰属収入の合計は145億27百万円となり、昨年度より1億93百万円減少しています。

基本金組入額は学校運営のために基本的に必要とする建物、機器備品、図書等の取得額（第1号）、将来の校舎取得等を目的とした施設設備整備資金の積上げ額（第2号）、成蹊学園創立100周年記念事業募金から積上げる奨学金基金（第3号）で、その合計額は32億72百万円となります。帰属収入から、この基本金組入額を控除した額が消費に充てられる消費収入で、その額は112億55百万円となります。一方、消費支出の部では、人件費、教育研究・管理経費などの消費支出合計は142億96百万円となります。

この結果、消費収入合計と消費支出合計の差額30億41百万円が消費支出超過額となる見込みです。

第2表の資金収支予算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されており、予算総額は292億65百万円です。収入の部のその他の収入は、退職金の支払資金および施設の建設や改修の支払資金等に充当するため、過年度に積上げていた資金の取崩し額です。一方、支出の部の資産運用支出には、計画に基づく施設設備整備資金引当特定資産等への資金の積上げが含まれます。

2007年度における学園創立100周年記念事業など主な事業計画は次のとおりです。

● 中学・高等学校施設の再開発

2006年7月に着工された中学HR棟の建築は順調に工事が進み、

2007年7月には竣工、2学期から使用される予定です。高等学校のHR棟については、基本計画が承認され、実施設計の作業を経て2007年10月に着工、2008年10月の完成をめざします。

● 小学校施設の再開発

小学校教室棟の再開発は、基本設計、実施設計の作業を終え、2007年5月から本館・理科館を解体し、2008年6月の竣工をめざして新校舎の着工に入ります。また、施設整備の一環として、中央館の1階を改修します。昇降口の改修、空調設備の更新、壁面塗装等を行います。

● 国際教育センター

小学校から大学までの学園縦断型組織として2004年度に開設された国際教育センターでは、国際化教育の効果的推進を目的とした、「多読教育への多面的アプローチ」の研究を引き続き行います。また、中学・高等学校ではイギリスのケンブリッジ大学ペンブルックカレッジ、およびオーストラリアのカウラ高校への短期留学プログラムを実施します。さらに、新たな留学奨励のための奨学金制度として、三菱グループからの寄付金を基金とした成蹊学園三菱留学生奨学金制度を設け、留学制度の充実を図ります。

● 学園環境の整備

沿道緑化

中学・高等学校エリアの沿道緑化を進めます。昨年度実施した南側に引き続き、2007年度は敷地北側の沿道緑化のため、校地の外周のコンクリート塀に沿って、ウバメガシを植え込みます。

大学体育館アリーナアスベスト撤去

児童・生徒・学生の安全安心な教育環境を確保するため、昨年度の中高体育館に引き続き、アスベストを含んだ大学体育館アリーナ屋根の折板裏打ち断熱材の撤去を行います。

● 学生指導・支援体制の整備

多様な授業に対応するための大学8号館・9号館教室の視聴覚設備改修、バリアフリー推進のための学生会館エレベーター設置、大学テニスコートの改修等を行います。

その他、厳しい財政事情ではありますが、充実した学園生活が送れるよう、できる限り教育関係予算の確保に努めています。

第2表 【資金収支予算書】

2007(平成19)年4月1日から、2008(平成20)年3月31日まで 単位(百万円)

収入の部	科目	予算額	前年度予算額	増減
収入の部	学生生徒等納付金収入	10,836	11,046	△ 210
	手数料収入	589	596	△ 7
	寄付金収入	456	474	△ 18
	補助金収入	1,634	1,519	115
	資産運用収入	406	352	54
	資産売却収入	499	799	△ 300
	事業収入	241	251	△ 10
	雑収入	365	482	△ 117
	帰属収入合計	14,527	14,720	△ 193
	基本金組入額合計	△ 3,272	△ 4,244	972
	消費収入の部合計	11,255	10,476	779
支出の部	人件費支出	8,386	8,445	△ 59
	(教職員等件費支出)	(7,822)	(7,684)	(138)
	(退職金支出)	(564)	(761)	(△ 197)
	教育研究経費支出	2,646	2,917	△ 271
	管理経費支出	754	761	△ 7
	借入金等利息支出	48	56	△ 8
	借入金等返済支出	172	172	0
	施設関係支出	4,494	4,398	96
	設備関係支出	359	679	△ 320
	資産運用支出	5,065	5,201	△ 136
	その他の支出	573	669	△ 96
{予備費}	350	350	0	
資金支出調整勘定	△ 560	△ 477	△ 83	
次年度繰越支払資金	6,978	7,856	△ 878	
支出の部合計	29,265	31,027	△ 1,762	

第1表 【消費収支予算書】

2007(平成19)年4月1日から、2008(平成20)年3月31日まで 単位(百万円)

消費収入の部	科目	予算額	前年度予算額	増減
消費収入の部	学生生徒等納付金	10,836	11,046	△ 210
	手数料	589	596	△ 7
	寄付金	456	474	△ 18
	補助金	1,634	1,519	115
	資産運用収入	406	352	54
	事業収入	241	251	△ 10
	雑収入	365	482	△ 117
	帰属収入合計	14,527	14,720	△ 193
	基本金組入額合計	△ 3,272	△ 4,244	972
	消費収入の部合計	11,255	10,476	779

消費支出の部	科目	予算額	前年度予算額	増減
消費支出の部	人件費	8,031	8,071	△ 40
	(教職員等件費)	(7,822)	(7,684)	(138)
	(退職給付引当金繰入額)	(209)	(387)	(△ 178)
	教育研究経費	4,568	4,606	△ 38
	(うち減価償却額)	(1,922)	(1,689)	(233)
	管理経費	930	935	△ 5
	(うち減価償却額)	(176)	(174)	(2)
	借入金等利息	48	56	△ 8
	資産処分差額	478	55	423
	徴収不能引当金繰入額	11	14	△ 3
	{予備費}	230	230	0
	消費支出の部合計	14,296	13,967	329
	当年度消費収支差額	△ 3,041	△ 3,491	450
	前年度繰越消費収支差額	△ 4,165	△ 674	3,491
	次年度繰越消費収支差額	△ 7,206	△ 4,165	3,041



お台場にあるフジテレビ本社

—— 漢文が好きだったのはなぜですか。
高島 漢文はともリズミカルで、音読しているうちに、そのままずっと頭にしみ入ってくる感覚が好きでした。今振り返ると、私にとって、漢文の音読がアナウンサーとしての芽生えだったのかもしれない。そういえば、中学生の時、授業で先生に朗読を「放送部でもないのに上手だ」とほめられて、さらにやる気が出たことを思い出します。

—— アナウンサーをめざそうと考えると、それはいつごろからですか。
高島 正直なところ、就職活動のシーズンを迎える直前まで、まったく考えていませんでした。きっかけになったのは、兄の友人だった深澤里奈さんが、当時、フジテレビのアナウンサーをされておりました。

—— サーをされておりました(現在はフリー)、フジテレビ主催の「お台場アナウンススクール」の案内を持ってきて、「面白いから受けてみたい」と、勧誘されたことですか。いわば一日体験コースのようなスクールで、原稿読みの基本を教わった上で、最後にはスタジオでシミュレーション番組の司会進行を務めるというプログラムが組まれていました。その時、周りの人たちが、上手に原稿を読む姿に圧倒されました。対して、私は緊張で、まったくしゃべれない。早く家に帰りたいとばかり考えていました。すべてのプログラムが終了した後、当日の様子を撮影したビデオを渡されたのですが、恥ずかしくて、しばらくは見える気も起こりませんでした。数日後、意を決して見ると、あまりのつたなさに悔しさがつり、このままでは終われない。アナウンサーに挑戦しようという気持ちでフツフツと沸いてきたのです。そこで、アナウンス研修などに通い、本格的な訓練を積みました。

—— 自分のことも友人のこともいとおしく思える学園
—— アナウンサーになって、成蹊学園で過ごしたことが役にたっていると感じることはありますか。
高島 フジテレビは、放任主義のテレビ局として知られています。指示めいたことが与えられることは少なく、自分

分をどう生かすかは、自分で考えなさいといった雰囲気です。その企業風土は成蹊学園の校風にも通じるところがあります。何かを押しつけられるのではなく、自分で考えて方向性を見つけていく教育に馴染んでいた私は、放任主義の会社に入社しても、戸惑うことはありませんでした。

—— 今後、アナウンサーとして、どんな仕事に力を入れていきたいですか。
高島 『めざましテレビ』を担当して、もう五年目を迎えます。これまでは、この番組を継続させることだけに一生懸命でしたが、今後は自分の役割を再認識し、私らしさを持って、そして人の役に立てる仕事をしていきたい。番組をリードできるようにしたい。そろそろそんなパワーが要求される立場になりつつあるとも考えています。

—— 最後に、後輩たちに向けて、メッセージをお願いします。
高島 成蹊学園の最大の魅力は、小学校から大学まで同じキャンパスの中にあるということ。十六年間通った私にとって、その生活を通して、濃密な友人関係が築けたことが大きな財産になっていきます。もちろん、ケンカもしましたが、常に一緒にいる環境です。それが一貫校のメリットですね。

また、たとえ同級生でなくても、成蹊学園出身者だというだけで、親近感を覚えます。フジテレビの局内でも、卒業生同士は本当に仲がいい。初めて会った時でも「ああ、あの櫻並木を歩いたんだね」というだけで、何かうれしくなり、通いあうものがあります。しかも、卒業生同士で学園生活の思い出を語り合っている時に痛感するのは、悪口をいう卒業生が多いたくないことです。あの場所で学んでいた自分のおしく思える。それが成蹊学園の魅力だと思います。



(インタビュー／広報課 上野剛司)

中学・高等学校の近況

中学スキー教室

十二月二十日から二十三日まで、志賀高原横手山において、中学一年生の希望者四十二名が参加してスキー教室が行われました。スキー教室の目的は大自然に親しみながら、生涯スポーツにもなりうるスキーの楽しさを体感するとともに、規律ある団体生活を通して仲間作りをすることです。講習は六班に分かれて行われましたが、最終日には横手山頂から全員が滑り降り、達成感を味わっていました。



シンガポール学習旅行

十二月二十六日から三十日の日程でシンガポール学習旅行が実施され、高校二年生五十八名が参加しました。シンガポール成蹊会との交流会や市内見学を通じて、アジア経済の中核都市として成長しつつある国際都市国家の現状を感じることができた四日間でした。ここに参加した高校生のレポートを紹介します。

参加者のレポート

●A組 大内 夢「シンガポールを訪れて」

三泊五日で行ったシンガポールの旅は、短いながらも一日一日がものすごく充実していて、とても思い出に残るものとなりました。学校の友達と共に旅をできたことも、家族旅行では絶対にできないこともでき、貴重な体験をすることができたと思います。シンガポールは「ガーデンシティ」という別名を持っていますが、まさにそのとおりだと思います。市内には南国の花が咲き乱れていたり、並木道がいたるところにあり、緑溢れる町は本当に美しかったです。さらにダウ



マーライオン広場にて

ンタウン地域には超高層ビルが建ち並び、まさに近代的都市であることを感じさせられました。自然と建物の調和がびつたりと融合していて、シンガポールの素晴らしさを身をもって感じる事ができました。

オーチャードロードの活気に溢れた雰囲気も、ナイトサファリでのスリル感も、セントーサ島でリゾート気分を味わえる所もすべて好きになりました。中でも特に私は三日目に訪れたアラブストリート、リトルインディア、チャイナタウンにものすごく魅力を感じました。シンガポールは多民族国家であることからもさまざまな文化や伝統が存在します。同じ一つの国の中でその多様な文化や伝統が融合している点がすごいと思いました。実際、リトルインディアとアラブストリートはほ

部員からの報告

●G組 有馬 純貴「ひとつの作品」

私達中高演劇部は、顧問の宮本浩司先生作「月下の花の段々」を上演しました。本格的に練習を開始したのは十二月の初頭でした。今回は中高合同だったので、総勢三十五人ものメンバーで活動していました。一ヶ月という短い時間の中で作り上げなければならぬというこもあり、普段以上に一致団結し集中して練習をしてきました。冬休み中は年末年始以外ほとんど休みもなく、ほぼ毎日部活の日々でした。しかしその成果もあり、協会賞受賞という結果を残すことができました。

劇の舞台は寒さの残る春、満開の桜が咲き乱れる神社の裏庭。目の見えないヴァイオリン弾きの青年、功一郎と彼を取り巻く人々の物語です。今回は舞台セットにこだわり、紙で作った桜の花をはりつけた大きな幕を天井から吊り上げて桜の木を表



ぼ隣接していたし、チャイナタウンのすぐ隣にはヒンドゥー教の寺院がありました。世界の中ではいまだに宗教や民族の違いによって紛争は起こっています。そんななかでもシンガポールではすべての民族が争いも起こさず平和に暮らしているように私には見えました。ちょうどチャイナタウンを訪れた時、近くにあったヒンドゥー教の寺院（スリ・マリアマン寺院）内で礼拝が行われていました。せっかくなので機会があったので友達と礼拝を見学することにしました。ヒンドゥー教についての知識は全くといってよい程ありませんが、礼拝はものすごく趣きがあり自分の知らない宗教の事について実体験を通して学べて楽しかったです。礼拝を見学して楽しいと思えた自分も少し大人になった気がしました。素敵な異文化体験ができたと思います。

中高演劇部

「東京私立中学高等学校協会賞」受賞

一月七日、八日の二日間、世田谷バブリックシアターにて「日韓友好 TOKYO ドラマフェスタ vol.18 第四十八回東京私立中学高等学校演劇発表会」が開催され、中高演劇部は「東京私立中学高等学校協会賞」を受賞しました。ここでは高校一年の部員から協会賞受賞に至る経過を報告していただきます。

耐寒健歩会・マラソン大会



今年度の中学の健歩会は、昨年までの狭山湖一周から多摩湖の北側を歩き、狭山湖を一周するというコースに変更になり、距離も三kmほど増え十八kmになりました。二十一日の当日は好天に恵まれ、春浅い陽光の中を全員元気に励まし合いながら歩きとおせました。

同日に、高校は国営昭和記念公園でマラソン大会を行いました。男子は八・五km、女子は四・五kmを一、二年の十六クラス対抗で競って走行しました。

団体優勝は二年D組、準優勝は一年D組でした。個人では男子が二年生の三十分二秒で優勝し、二位三位は一年生でしたが、十位までに二年生が六人入りかろうじて面目を保ちました。女子は一年生が十八分十五秒で優勝し、十位までに一年生が七人も入り健闘しました。昨年の大会では気温が高く脱水症状を起こした生徒もおりましたので、今年は給水所も設け実施しました。

三学期の体育実技は中学では健歩会を、高校はマラソン大会をめざして持久走が中心となります。週二回の実技で培った心身の持久力での鍛練の行事を克服します。

この二つの行事は中村春二先生の「愛撫よりは鍛錬を」の精神をとどめる行事として今後とも大切にしていきたいと考えています。



入学試験

二〇〇七年度入学試験は、一月十日の中学国際学級入試を皮切りに二月一日に中学一般入試、十日高校一般入試、更に十四日には高校帰国生入試が行われました。

中学一般入試は今年から四科で実施をしました。私学の男子校、女子校からの共学化や昨今の公立中高の改革が行われている厳しい情勢のなかで、受験者数は昨年並み、高等学校は増加となりました。成蹊中学・高等学校はその存在と魅力をさらに流布すべく努力を重ねる所存です。

入学試験の結果・詳細については本誌十八ページをご覧ください。

小学校の近況

本館・理科館とのお別れ

新校舎建設のため、本館と理科館の使用は二〇〇六年度の三学期が最後となりました。三学期の修業式では、現在の本館が完成した年に成蹊小学校に着任した岡崎忠彦先生の話を聞き、本館・理科館とのお別れをしました。本館は昭和四十六（一九七二）年から三十六年間、また理科館は昭和三十二（一九五七）年から五十年もの長い間使用してきました。創立以来の卒業生の半数を超える五千人以上の子どもたちが生活してきた建物でした。現在の子どもたちばかりでなく、多くの卒業生の思い出が詰まった本館と理科館の解体工事は五月頃から始まります。また、新本館建設工事のためにトンネル山の仮設校舎で過ごす期間は、この四月から来年の七月までです。そして二〇〇八年度の二学期からは、新本館に移転します。



理科館(手前)と本館教室棟(奥)



本館教室棟(東側教室部分)

トンネル山仮設校舎への移転

トンネル山仮設校舎への移転は、三月二十三日から一週間をかけて行われました。本館と理科館、そして中央館二階の教室を含め、全部で二十七教室にある机や椅子、そして学級備品や膨大な教材・教具

ちが校並木やトンネル山校舎前に集合して、担任とともに周回コースを元気に走っていました。体育科が集計した記録にも、今年の熱心な練習の成果が現れます。特に五、六年生の記録の伸びに目覚ましいものがありました。二〇〇五年度と二〇〇六年度の記録を比較してみますと、五年生で二kmの平均タイムが九分五十五秒〇一から九分二十七秒六八に、同じく六年生では九分四十四秒四九が九分二十三秒〇三にと、大幅に記録を更新しました。今年の六年生の昨年との比較を見ても、九分五十五秒〇一から九分二十三秒〇三へと、平均で二十二秒も短縮しています。



子どもたちの体力の低下が懸念される中で、マラソン大会に見られる全体的な記録の向上は、喜ばしいことでした。

ドッジボール大会

マラソン大会に続いて二月二十二日から学年ごとにドッジボール大会が行われました。一年生から三年生までは体育科の行事としてその運営方法が定められていますが、四年生以上は学年の行事として試合形式やセット数の取り方などを取り決めています。もちろん、コートや規格や使用ボール、「おたすけボール」や「しんボール」などのルールもきちんと定められた学級対抗試合となりますので、子どもたちや担任



トンネル山校舎

類がトンネル山校舎に引越しました。これまでも、学年が一つ上がっただけで生活は一変し、子どもたちが新学年の生活に慣れるまでには時間がかかりました。これに加えて、この四月からは校舎が変わります。教室の並び方も変わります。食堂や体育館・松林館へ行く動線も変わります。そして子どもたちの一番の楽しみである遊び場の使い方も変わります。子どもたちばかりでなく、保護者の方々にも多くのご不便をおかけすることになります。

五年生・国際理解の授業

小学校では、国際理解教育の一環として、毎年五年生の国際学級児童が滞在国での暮らしを紹介する時間を特設しています。社会科と「こみち」科が協同して、事前の準備から当日の進行までを子どもたちの力でできるように指導します。

一月二十五日の国際理解の授業は、五年国際学級の児童十四名が「先生」で、一般学級の児童が「生徒」でした。今回の「先生」たちの滞り国は、イギリス・中国・アメリカ合衆国・オランダ・イタリア・フランス・アラブ首長国連邦・カナダ・オーストラリア・南アフリカの十カ国でした。それぞれの国を紹介する新聞を作ったり、模造紙で図や写真入りのポスターをまとめたりと事前準備をした「先生」たちは、当日六グループに分かれて「生徒」たちに熱心な授業をしました。「生徒」たちは、後半に新聞作りの学習が予定

ばかりでなく、毎年保護者の方々への応援にも熱が入ります。

そのためか、マラソン大会が終わるとすぐに、校庭では各学級の子どもの入りが乱れてのドッジボールの練習が始まり、そのにぎやかな笑顔と歓声は小学校の風物詩となっています。

小学校の園芸教育

小学校の園芸教育は、創立以来の伝統ある体験学習となっています。小学校の畑と学園馬場横の小学校園芸場を利用して、すべての学年が栽培から収穫、調理までを体験します。

近年注目されている「食育・食農教育・食環境教育」といった考え方や実践の重要性を指摘するまでもなく、小学校教育において子どもたちが自然に直接触れて学ぶ機会を持つことは大切なことです。その体験の場が用意されているという意味でも、成蹊は恵まれた環境にあります。

小学校ポプラグラウンド横には、一年生から三年生までの学級畑と理科畑があります。また馬場横の小学校園芸場には、四年生から六年生までの学年畑と「こみち」科畑があります。

これらの畑で、ハツカダイコンと青首大根は一年生、えだまめと白菜は二年生、三年生はつるありいんげんとさつまいも、そして四年生はジャガイモ、五年生は大豆、六年生は小麦やとうもろこしと、年間を通して多様な栽培体験をします。



されていたこともあり、事前調べや「先生」の説明をもとにした活発な意見交換をしていました。学習のまとめの後では、その国の特徴的な玩具などを手にしたり、おやつをいただいたり、保護者の方から補足説明があったりと、ご家庭のさまざまな協力を得て実施できた国際理解の授業でした。



そして「先生」と「生徒」の相互理解がさらに深まったことが何よりの成果でした。

マラソン大会

小学校のマラソン大会は、一月二十九日から二月五日までに全学年が予定通り実施しました。一月の終わりにハルトグラウンドの白梅がほころぶという例年になく暖かさで、どの学年も恵まれたコンディションで走ることができました。

低学年一km、中学年一・五km、高学年二kmの校並木や櫻並木を周回するコースを、伴走する教員や走路の安全を確保する事務職員に見守られながら、子どもたちが元気に走りぬぎました。初めてマラソン大会を経験した一年生の中には、授業での記録を二分近く短縮するというがんばりをみせた子どももいましたが、いずれの学年でも多くの保護者の方々から熱心な応援をくださったことが、記録更新の追い風になったことは間違いありません。また、マラソン大会を前にした練習も、いっ



子どもたちが「自分が育てたものはおいしい」と、嬉々として試食する姿や、収穫した作物を袋に入れて持ち帰る姿を見ると、担任や専科担当者はそれまでの苦労をしばし忘れてしまいます。春を迎えて、また今年も畑では馬場から出る馬糞を用いた土作りをスタートし、新年度の学習の準備を始めています。

第九十一回卒業式

三月十九日に、第九十一回卒業式が学園大講堂で行われました。二〇〇一年、二十一世紀の初めの年に入学した子どもたちの巣立ちです。今回の小学校卒業証書通し番号は、九六二七番から九七五〇番です。この百二十四名の卒業生の前途は洋々です。多くの先輩に続いて、輝かしい未来を雄雄しく切り拓いてほしいと、心から願っています。



成蹊から お伝えしたいこと TOPICS 学園

少人数教育の充実に向けて 大学一号館二号館を改修

成蹊学園では、創立一〇〇周年記念事業「新・成蹊創造プラン」の一環として、さまざまな教育環境の整備を行っています。そのなかで、今回、創立者中村春二先生の提唱した個性尊重の少人数教育のさらなる充実を図るべく、旧大学図書館別館を大学二号館として改修し、二階から三階まで合計三十七室の演習室（ゼミ教室）を設置。廊下と部屋の仕切りにガラスを用い、どの部屋も明るく開放感あふれる雰囲気となりました。

今後、学生が主体的に勉学に励み、この場を利用した活発な授業が行われることが期待されます。

また、旧大学図書館本館は一号館となりキャリア支援センター（一階）、国際教育センター（二階）、アジア太平洋研究センター、各種資格課程室（三階）、文科系大学院研究室（四階以上）が移動しました。各種センターが集中したことで、学生がよりサービスを利用しやすい環境となりました。



2号館2階ロビー



2号館演習室（ゼミ教室）



1号館外観

仙台・名古屋二会場 「成蹊地域懇談会」を開催します

学園では、各地の卒業生や在学生保証人の皆様との懇談を通じて、地域との連携を強化することを目的とし、地域懇談会を開催いたします。

二〇〇七年度は東北地区（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県）、東海地区（愛知県・岐阜県・三重県・静岡県）二会場で開催いたします。該当地域にお住まいの方へは、後日改めてご案内状を差し上げます。ぜひお越しください。

成蹊地域懇談会

仙台会場

日時：2007年9月1日（土）
14:00～16:30

会場：仙台サンプラザホテル
ローズの間

名古屋会場

詳細は決定次第
お知らせいたします。

お問い合わせ先

成蹊学園広報課
電話：0422-37-3517

●学園組織一覧

法人	総務部	総務課	0422-37-3503
	人事部	人事課	0422-37-3505
		広報課	0422-37-3517
		募金課	0422-37-3941
	財務部	経理課	0422-37-3508
		管財課	0422-37-3511
	健康支援センター	健康支援センター事務室	0422-37-3518
		国際教育センター	0422-37-3536
	学園情報センター	情報システム課	0422-37-3611
		企画運営課	0422-37-3531
大学	企画運営部	研究助成課	0422-37-3705
		授業課	0422-37-3703
	学務部	履修課	0422-37-3553
		学生相談室	0422-37-3807
	学生部	学生生活課	0422-37-3539
大学保健室		0422-37-3518	
図書部	図書館事務室	0422-37-3544	
	アジア太平洋研究センター	0422-37-3549	
	キャリア支援センター	0422-37-3537	
入試センター	入試センター事務室	0422-37-3533	
中学・高等学校	中学・高等学校事務室	0422-37-3849	
小学校	小学校事務室	0422-37-3838	

●役職者

成蹊学園		
理事長	岸 曉	
専務理事	橋本 竹夫	
総務部長	茂木 聡	
総務部担当部長	伊藤 昌弘	
財務部長	野田 吉政	
健康支援センター長	加藤 明良	
国際教育センター所長	西崎 文子	
国際教育センター所長職務代行 (2007年4月1日～2007年8月19日)	宮脇 俊文	
学園情報センター長	岩崎 学	
成蹊小学校		
校長	金納 善明	
教頭	大場 繁	
成蹊中学・高等学校		
校長	谷 正紀	
副校長	吉崎 純二	
教頭	両角 雄功	
教頭	跡部 清	

成蹊大学

学長	栗田 恵輔
経済学部長	
大学院経済経営研究科長兼 経済学研究科長	武藤 恭彦
大学院経営学研究科長	新村 秀一
理工学部長兼工学部長	廣田 明彦
大学院工学研究科長	
文学部長	中里 明彦
大学院文学研究科長	
法学部長	亀嶋 庸一
大学院法政政治学研究科長	廣部 和也
大学院法務研究科長	廣部 和也
企画運営部長	高浜 武則
学務部長	鐘川 誠司
学生相談室長	牟田 悦子
学生部長	宮村 治雄
図書館長	西藤 洋
アジア太平洋研究センター所長	鈴木 健二
キャリア支援センター所長	北川 浩
キャリア支援センター事務部長	秋庭 正典
入試センター長	奥野 昌宏

●大学

学部・学科	入学定員	一般入試					AOマルデス入試		
		方式	志願者	受験者	合格者	競争率	志願者	受験者	合格者
経済学部	経済経営学科	A方式*	4,256	3,915	498	7.9	200	187	43
		C方式	2,197	2,195	201	10.9			
		S方式	146	146	12	12.2			
	計	435	6,599	6,256	711	8.8	200	187	43
法学部	法律学科	A方式	1,951	1,731	229	7.6	129	125	21
		C方式	1,748	1,748	311	5.6			
		S方式	96	96	12	8.0			
	計	250	3,795	3,775	540	6.5	129	125	21
政治学科	政治学科	A方式	906	790	152	5.2	52	51	10
		C方式	1,234	1,234	247	5.0			
		S方式	36	36	6	6.0			
	計	140	2,176	2,067	265	5.9	52	51	10
文学部	英文文学科	A方式	720	638	170	3.8	61	59	9
		C方式	481	480	119	4.0			
		S方式	15	15	3	5.0			
	計	120	1,216	1,137	292	4.3	61	59	9
日本文学科	日本文学科	A方式	612	554	110	5.0	31	30	5
		C方式	443	443	80	5.5			
		S方式	22	22	3	7.3			
	計	83	1,077	1,077	193	5.4	31	30	5
国際文化学科	国際文化学科	A方式	824	759	239	3.2	59	57	10
		C方式	517	517	82	6.3			
		S方式	23	23	3	7.7			
	計	100	1,364	1,299	324	4.1	59	57	10
現代社会学科	現代社会学科	A方式	640	567	157	3.6	61	57	10
		C方式	433	432	82	5.3			
		S方式	19	19	3	6.3			
	計	100	1,192	1,066	242	4.5	61	57	10
理工学部	物質生命理工学科	A方式	494	385	102	3.8	33	32	14
		C方式	701	701	272	2.6			
		S方式	71	71	6	11.8			
	計	120	1,266	1,158	380	3.3	33	32	14
情報科学科	情報科学科	A方式	474	345	111	3.1	44	40	18
		C方式	539	539	246	2.2			
		S方式	33	33	6	5.5			
	計	120	1,046	929	363	2.8	44	40	18
エレクトロメカニクス学科	エレクトロメカニクス学科	A方式	373	284	67	4.2	31	30	14
		C方式	591	590	228	2.6			
		S方式	43	42	6	7.0			
	計	120	907	882	299	3.2	31	30	14
大学計	1,588	20,638	19,350	3,763	5.1	701	668	154	

*入学定員には推薦入学を含みます。*経済学部A方式は「地歴公民型」と「数学科」の合計です。

●大学院

研究科・専攻	博士前期課程			博士後期課程		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
経済経営研究科	経済学専攻	1	1	0	0	0
	経営学専攻	26	25	10	1	0
	計	27	26	10	1	0
法学政治学研究科	法学専攻	3	2	0	2	1
	政治学専攻	4	4	1	4	3
	計	7	6	1	6	4
文学研究科	英文文学専攻	6	5	3	1	1
	日本文学専攻	4	4	2	5	3
	社会文化論専攻	11	10	6	3	2
	計	21	19	11	9	6
工学研究科	電気電子工学専攻	18	18	17	0	0
	応用化学専攻	17	17	17	0	0
	機械工学専攻	14	14	11	0	0
	情報処理専攻	12	12	12	0	0
	物理情報工学専攻	12	12	12	0	0
	計	73	73	69	0	0
法務研究科(法科大学院)	669	640	98			
大学院合計	797	764	189	16	13	9

●小学校

学年	募集人員	志願者	合格者
第1学年	112	916	112
国際学級 第4学年	若干名	17	11

●中学校

学年	募集人員	志願者	合格者
第1学年	男子75 女子55	男子281 女子142	男子94 女子66
国際学級 第1学年	約10	58	25
第2学年	若干名	6	3
第3学年	若干名	5	2

●高等学校

学年	募集人員	志願者	合格者
第1学年	約80	369	176
海外帰国生 第2学年編入	約15	52	1
第2学年編入	若干名	2	1